

講義名	経済史			授業形態	
担当教員	亀井 大樹	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

グローバルゼーションとはヒト・モノ・カネ・知識が国境を越えてやりとりされる現象をさします。われわれの一日の生活を振り返ってみても、グローバル化の恩恵を受けています。例えば皆さんが着ておられる衣服を考えてみましょう。国内市場や国民生活にどのくらいの輸入品が浸透しているかを示す指標である輸入浸透率は2021年衣類の統計データは98.2%でした。誤解を恐れずに言うと、皆さんがお召しになっているほぼ全員服は輸入品であるといえます。世界がグローバル化することで、安価で品質のよい商品を交換し、人類の生活水準を向上させてきたといえるでしょう。しかし歴史的に考察すると、グローバル化は決して皆の国でなく、非善とともに善悪もあつたことは事実です。近年ではロシアによるウクライナの侵襲や米中対立やウクライナ紛争などにみられるように、東西対立に発展しています。今後どのように世界経済や日本経済は推移していくのでしょうか。本講義は歴史とグローバルゼーションを手がかりに、日本経済のあり方を振り返ってみようというのが狙いです。本講義を受講することで今後の経済のあり方を歴史的観点で考察する癖を養い、「社会人」としての経済史に関する「教養」を身につけます。歴史的に考察するという視点は就職活動の会社研究や業界研究にも生かせるはずです。

到達目標

- 【第1段階】 意欲・態度に関する目標
- 目標1 歴史に関心を持ち、歴史を学ぶことは楽しいと感じる。
 - 目標2 歴史を学ぶことは将来有用であることに気づく。
 - 目標3 自ら図書館等へ向かい、経済の歴史を調べる。
- 【第2段階】 知識・表現（基礎）に関する目標
- 目標4 高校世界史や高校日本史の歴史用語、概念を説明できる。
 - 目標5 1500年から2020年までのグローバル経済の歴史、日本経済の歴史に関する時間軸を構築できる。
 - 目標6 現代のグローバル経済や日本経済は過去から連続性の上にあるということを確認する。
- 【第3段階】 知識・表現（応用）に関する目標
- 目標7 経済の歴史を学ぶ意義を認め、経済学上においても、なぜ必要なのかを説明できるようになる。
 - 目標8 この授業終了時には少なくとも一つの実例を挙げながら経済の歴史を説明することができる。
 - 目標9 歴史的な視点を踏まえつつ、今後のグローバル経済と日本経済のあり方を議論することができる。

提出課題

- ・ミニッツペーパー
- ・毎回の授業後にその日の授業内容を簡単に振り返りと感想・質問・不明点を提出します。
- ・詳細は授業中に説明します。
- 模範試験
- ・学期半ばで模範試験を行います。いつやるかは事前にアナウンスします。
- ・成績評価には反映しませんが、学期末試験へつなげる重要なファクターとなります。
- ・持ち込みは全て可で検討しています。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・ミニッツペーパー
- ・提出したミニッツペーパーにおける感想、質問、不明点は登壇以降の授業スライドで回答します。
- 模範試験
- ・模範試験を行った場合は、登壇以降に講評をおこないます。

評価の基準

- 【平常点】 20% 目標1～3 に対応します。
- ・授業への参加度（受講態度）およびミニッツペーパーでの質問や感想内容で評価します。
 - ・私道や他の受講生の迷惑になるような行為は厳に慎んでください。
 - ・授業中に私語がない場合、授業参加点として、全員に（△）を付与することがあります。
- 【模範試験】 0%
- ・学期半ばで模範試験を行います。いつやるかは事前にアナウンスします。
 - ・成績評価には反映しませんが、学期末試験へつなげる重要なファクターとなります。
 - ・模範試験は持ち込み「可」で検討しています。
- 【定期試験】 80% 目標4～9 に対応します。
- ・学期末定期試験を行います。
 - 【ボーナスポイント】（最大15%）
 - ・加点課題を認定することがあります。
 - ・任意課題ですので、意欲のある人のみ提出することができます。
 - ただし成績評価は平常点。定期試験、加点課題を中心に総合的に勘案して行います。
- ・成績評価の方法（加点課題等）は初回の授業で説明します。
 - ・ミニッツペーパーの回収はスマホ、タブレット、パソコンを用います。スマホ、パソコンを持参してください。持っていないでも当日配布限定の紙のミニッツペーパーを配布します。
 - ・定期試験だけで成績評価はしません。

履修にあたっての注意・助言他

- 【受講のルール】
- ・食事（飲みも含む）は厳禁です（水分補給のための飲み物は認めます）。
 - ・受講中のイヤホンの着用は厳禁です（ただし聴覚等に障害がある場合は認めます）。
 - ・他の受講生に迷惑がかかるので、講義中の私語は厳禁です（ただし討論を行う時はこの限りではありません）。
 - ・ミニッツペーパーで私語による言語があれば、登壇から予告なしに画面指定を行うことがあります。
 - ・特に授業中に私語がない場合、授業参加点とし、全員に（△）を付与することがあります。
 - ・他の受講生に迷惑がかかるので、授業中に携帯電話やスマホの着信音やチャタター音を鳴らさないようにしてください。
 - ・スライドをスマホで静止画撮影するのは認めますが、その場合、マナーカス等のアプリを使用してください。
 - ・動画撮影は認めません。
 - ・障害のある生徒がいれば申し出てください。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.グローバル経済の歴史。	河崎信樹・村上衛・山本千映	有斐閣	3080	978464122148
.なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか。	ロバート・C・アレン著、グローバル経済史研究会訳	NTT出版	2090	978475712304
.日本経済史。	宮本又郎編著	放送大学教育振興会	2970	978459531363

その他

- 【配布資料】
- ・配布資料は授業時に適宜配布するか、必要に応じてポータルサイト等にアップします。
- 【参考文献】
- ・授業時に指示しますが、高校歴史の教科書・資料集類をあげておきます。例えば以下のような文献をあげておきます。
- 日本史探究
- 佐藤信ら編著（2023）『詳説日本史』山川出版社。ISBN 978-4-634-70121-2
- 世界史探究
- 木村尚ら編著（2023）『詳説世界史』山川出版社。ISBN 978-4-634-70131-1
- 歴史総合
- 久保文明、中村尚史ら編著（2022）『現代の歴史総合 みる・読めどく・考えろ』山川出版社。ISBN978-4-634-70112-0

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：一日の生活を振り返ってみよう。
- 第3回：そもそもGDPとは？
- 第4回：歴史的にみた開国、地域別の1人あたりのGDP推移を振り返ってみよう。
- 第5回：なぜ世界は豊かな国と貧しい国に分かれたのだろうか？
- 第6回：超長期における日本の世界的な地位の推移を振り返ってみよう。
- 第7回：まとめ、中間試験
- 第8回：世界はどのようにしてグローバル化がはじまったのだろうか？
- 第9回：グローバル化のはじまりと日本へはどのような影響があったのであろうか。
- 第10回：江戸時代の日本はこの国となっていたのだろうか。
- 第11回：20世紀転換期の世界はどのような経済だったのだろうか。
- 第12回：幕末の日本はどのような経済だったのだろうか。
- 第13回：日本の工業化はどのように進められたのだろうか。
- 第14回：歴史的にみてグローバル化はどのように終焉したのだろうか。
- 第15回：全体のまとめ
- 学期末定期試験

- ・なお授業テーマについては、学生の理解状況にあわせて、変更・調整される場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 【予習】2時間
- ・高校の日本史や世界史の教科書等で該当時代を復習しておく。
- ・1年次の授業（例えば「経済学入門」など）で学んだ概念を復習しておく。
- 【復習】2時間
- ・毎回のスライドで提示した到達目標を達成できるようにしておく。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義を受講することで、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のうち、「（2）知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」と「（3）創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」に寄与することができるようになります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- 【ICT活用】
- ミニッツペーパーの回収はスマホ、タブレット、パソコンを用います。スマホ、タブレット、パソコンを持参してください。

実務経験の有無及び活用

ありません。

備考

特ありません。